

# 風の里 グループホーム

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		法人の理念として、「納得・共存・勇気」、事業所の運営方針として、利用者一人ひとりに、納得して人生を過ごしてもらうこと、利用者職員が互いに支えあいながら過ごす家を作ること、常に質の向上を目指すこと、事業所の透明性と公益性を常に意識すること、の4つを掲げている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		入社時のオリエンテーションや様々なミーティングで法人の理念「納得・共存・勇気」を伝え、確認するようにしている。また、日常業務の中でも、職員全員が常に理念を意識した判断、行動をとるように努めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ご家族には、ご利用契約の際、法人・事業所の理念・運営方針を必ず伝えている。近隣の方々には、町内会活動や、個別訪問等により、事業所の考え方を理解していただけるように努めている。運営推進会議においても、理念に基づいた事業所運営を理解していただけるようにお話している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		利用者と一緒に散歩しながら、ご近所の方々にあいさつして回っている。また、来訪者はいつでも歓迎している。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域行事(盆踊りや秋祭り)に参加させてもらっている。また、19年12月より、町内会に加入し、町内会の役などを積極的に担っていききたいということを町内会の方々に伝えている。

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治区会長さんや老人会長さんには、高齢者介護の事業所であることで役にたてるのであれば何でもしたいと申し出ているが、事業所発での取り組みはまだ行えていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	19年11月に開所後初めての自己評価を職員全員で行い、取り組むべき課題を拾い上げ、改善計画を作成。現在も取り組み中。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの情報発信に加え、ご利用者・ご家族の疑問や思いなどを必ず伺うようにし、寄せられた疑問・ご意見について、また全参加者からの意見も伺うようにしている。運営推進会議での意見については、職員のミーティングにフィードバックし、取り組むべき課題を抽出するようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者の方々には、疑問な点などについてのアドバイスをいただくことがある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会への参加などを通じ、制度への理解を深めている。利用者個々のケースを検討する際、制度活用の必要性も視野に入れて考えるようにしている。実際に後見制度を使われている利用者もおられ、担当の司法書士の方とも連絡をとりあっている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会を開催し、虐待の種類や背景、防止に向けての取り組みなどについて学習した。また、日常的に、利用者の尊厳について常に意識するように努めている。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用契約時はしっかり時間をかけ、契約内容、重要事項説明書などについて説明している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者お一人おひとりの気持ちを常に伺うよう努めているが、職員ではない第三者の方に聞いてもらうことは行っていない。</p>		<p>平成20年度の介護相談員派遣事業に申し込み、介護相談員さんに来ていただくことで、ご利用者の本当の気持ちを確かめ、介護に生かしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご利用者の方にいつもと違ったこと(事故、健康状態等)があればすぐに連絡を入れている。また、来訪時には、必ずコミュニケーションをとるようにしている。さらに、1月からは担当職員から毎月ご家族へ状況をお知らせする手紙を出している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>何かあればすぐ話していただけるように、こちらからご意見を伺ったりするなどしている。苦情の受付者として、法人の第三者委員や関係機関などをご紹介している。いただいたご意見等は職員全員に伝え、改善するように努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>公式の場としては、月に一度ミーティングを行い、意見を聞くようにしている。それ以外でも、一人ひとりの職員の意見を日常的に聞くようにし、事業所として改善に向け取り組むべき課題があれば、すぐに対応するように努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務体制については、現場の職員の意見を聞き、必要に応じて変えられることを伝えている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職を最小限に食い止めるためにも、職員一人ひとりの気持ちの把握に努めている。ご利用者・ご家族の不安解消のために、新入職員の紹介はすぐに行っている。</p>		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用に当たり、性別・年齢の制限は設けていない。採用後も、職員一人ひとりが個性を生かし、生きがいをもち仕事ができるように配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入社時のオリエンテーションでは、認知症への理解を含め、人を大切にすることについて、特に力を入れて話している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時研修、その後のOJT、事業所内研修、外部研修への参加などを行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所主催の勉強会に参加するなど、交流の機会を設けている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスを溜め込まず、いつでも相談できるという雰囲気づくりに努めている。</p>		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの長所を見極め、それが生かせるように言葉かけをしている。また、定例のミーティングの場では、成功事例は職員全員で賞賛し、困難事例は職員全員で解決するように努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	ご利用についてのご相談後、入居前までに必ずご本人と面接し、ご本人が困っていること、不安なこと、現在の状態・状況などを聞く機会をなるべく多く持つようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談面接、利用申し込み時の面接、入居前の面接などの機会に、じっくりとお話を伺うようにしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際、GHへの入居の必要性の緊急性を検討するとともに、即入居が不可能な状況であったり、即入居が不必要な状況の場合、現在の生活を支えるために必要なことを、ご相談者とともに考えるようにしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居室をご本人が慣れ親しんだ雰囲気を整えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する人、される人と立場をわけず、今までの生活歴を把握し、経験や体験など利用者から学びながら共に暮すことで支えあう関係を築くよう努めている。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者に何かあればすぐにご家族に連絡し相談したり、毎日の生活の様子を定期的にお伝えすることで、ご家族にいつもご利用者のことを意識していただけるようお願いしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでのご本人・ご家族の関係を聞くとともに、グループホームでの生活状況を報告し、現在の状況を理解してもらうことで、よい関係はそのまま継続してもらい、不満・不和などについては、お互いの誤解を解くなど、役に立てるように努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に限らず、馴染みの方にはいつでも来ていただけるように声かけをしている。ご本人さんが「行きたい」と希望される場所には、職員同伴、もしくはご家族の方に依頼して行けるように考えている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が自然に会話し、お互いを受けあいないがら暮せるように、ご利用者同士の人間関係をよく把握し、時には職員が間に入りながら、楽しい雰囲気づくりをしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了者がでた際には、利用終了後も、利用中に培った関係性を大切にしていきたいと考えている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族によく話をきくとともに、ご本人の毎日の表情などから、納得のいく生活を送っておられるかをいつも気にするようにしている。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時の面接だけでなく、ご本人やご家族との日常的な会話から、生活歴や今までの暮らしなどを把握し、スタッフ間で情報共有するように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしのあらゆる場面で、関わりをもちながら、利用者の行動や表情、心の動きなどを観察するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用開始時、ご利用1ヵ月後、その後は半年ごと、もしくは大きな変化があった際に、ご本人・ご家族・職員がカンファレンスを持ち、ご本人・ご家族のご希望をよく聞き、一緒に介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1度はカンファレンスを行い、状態にあった介護計画を作成している。また、見直し時期前でも、大きな変化があった場合には臨時にカンファレンスを行い、介護計画を変更している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、日々観察すべきこと、対応すべきことなどを「ケアプログラム」として細かく立案し、それに基づいた記録を行うことで、介護計画の見直し等に生かしている。		日々の様子、気づきや工夫など、ほんの小さなことでも記録に残すようにし、介護計画の見直しや新たなニーズを見つめる機会にしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間面会可能とし、さらにご家族にグループホームで宿泊してもらったり、食事を共にしてもらったりなどしている。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関などと協力しながら支援している	ご本人さんの必要性により、近隣の施設に協力を依頼したり、警察に相談したりする(無断退居の可能性の高い方)など、事業所だけで抱え込み、閉鎖的にならないようしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人さんの意向や必要性があれば、事業所内だけで抱え込まず、他のサービスの利用なども含め、多角的に検討していきたい。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員さんに運営推進会議に参加してもらい、アドバイスをいただいている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望のかかりつけ医があれば、その要望に答え、希望がない場合には、グループホームのかかりつけ医に往診をたのんでいる。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の精神科病院に協力病院を依頼し、必要時認知症についての専門的診断・治療をお願いするようしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと連携をとり、日常的な健康管理を行っている。気になること、相談などに気軽に応じてもらっている。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医、入院先病院、訪問看護ステーションと連携をとり、情報交換を行っている。入院治療の必要がなくなったときには、なるべく早く退院していただけるように、グループホームで行うべきことについてのアドバイスもいただいている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、利用前の面接時からご意向を伺ったり、グループホームとしての考えを伝えたりしている。入居後のカンファレンスの中でも行っている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族、かかりつけ医とよく話し合い、できる範囲のケアを最大限に行えるように備えている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージについて、職員全員がよく理解するようにしている。		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、言葉かけ、対応に気をつけている。また理解が難しい行動であっても、「わけのわからないこと」で切り捨てず、意味を考えるようにしている。個人情報の取り扱いについては、説明会、ルールなどを作り徹底している。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いろいろな場面で選択してもらったり、希望を聞くようにしている。また、行動する前に必ず説明し、納得してもらうようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者全員の日課は定めず、お一人おひとりのペースで過ごしてもらうようにしている。		ご利用者にはご自分のペースでゆったりと過ごしていただいていると思うが、これからは、職員も利用者のそばでゆったりと過ごす時間を増やしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人希望・ご家族希望の理美容がある方は、希望の店にお連れしている。訪問理美容も取り入れている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の準備、食後の後片付けなど職員と一緒にしていただいている。味付けやメニューの提案など、利用者の希望にも対応している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	移動パン屋、近所のスーパー、コンビニなどに、散歩をかねて行ったり、車で行ったりして、お好きなパンや嗜好品などを買ってもらっている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行うことで失敗も減り、気持ちよく排泄してもらっている。また、今までの生活の中で安易に使われていた紙パンツ、オムツを、布パンツ+パットに変更し、さらに快適過ごしてもらっている。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お一人ごとに入っていたり曜日は一応決めているが、そのときのご本人さんの気持ち、状態に合わせて、臨機応変に変えている。できる限りご本人の希望時に入浴していただけるように努めている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を把握し、使いなれた寝具など持ってきていただくことで、安心して気持ちよく休んでいただいている。また、元々お持ちだった睡眠パターンを無理に変更せず、お一人お一人の希望にあわせるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、ご本人の特性にあった役割をもっているようにしている。また、趣味や特技なども生かせるようにしている。		お一人おひとりの楽しみ(役割・娯楽など総合して)について、もっと把握し、さらに充実した毎日を送っていただきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる人には、お金を所持してもらい、買い物などを楽しんでもらっている。難しい方については、事業所で立替え、買い物してもらっている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、希望時や、天候等の状況によっては誘いかけて、個別に行っている。職員と1対1であったり、他の利用者も誘い合ったりしてでかけている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	夏は海、秋は紅葉狩りなどを考えたが、実行にはいたらなかった。また、どうしても里帰りしたいという利用者については、ご家族に連れて行ってほしいとお願いしたりしている。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されるときは、ご家族に電話をかけていただいている。また、趣味で書かれた手紙をご家族に送ったりしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間面会可能とし、いつでも気軽に訪問してもらえるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会、マニュアルを通じ、職員全体が身体拘束について理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。実際、拘束はないし、拘束しなければいけないという職員からの発案もない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることについての弊害については、運営推進会議でも話あい、職員全員も理解している。日中、鍵はかけていない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人のプライバシーに配慮しながら、声かけ、見守りを行い、利用者の状態を把握し、安全面に注意している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全員一律の持ち込み禁止品等は作っていない。お一人おひとりの状態にあわせ、リビングや居室など、危険を防ぐ取り組みを行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	起こりやすい事故についてはマニュアルを作っている。また、事例をあげて、フロアミーティングや学習会などを行い、事故防止にとりくんでいる。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	学習会で、急変時や事故発生時などの訓練を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルを作成。それに基づいて避難訓練も行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、ご家族に対し、高齢者に一般的なリスクについて説明し、さらに、お一人おひとりに高リスクと考えられることについて話合うようにしている。入居後のカンファレンスでも、継続している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変の発見の大前提として、通常の状態をよく把握しておき、バイタルサインからだけでなく、表情、行動など日常生活の状況から体調の変化に気付けるようにしている。気付いたときには、かかりつけ医、訪問看護師、職員間で情報を共有している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬情報をファイリングし、薬の意味を理解するようにしている。また、誤薬防止のため、薬の管理方法、服薬支援の方法などを工夫している。また、服薬後の変化の観察も行っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・水分摂取量の観察、排便リズムの把握を徹底している。できるだけ下剤を使用しないよう、食材料を工夫している。排便状況を必ずチェックしている。		

## 風の里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア(介助や声かけ)を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量を観察し、その方にあった摂取量を提供している。その際、これまでの食習慣についてのご本人・ご家族からの情報収集も重要であると考えている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症について、防止・万延防止マニュアルを作成している。学習会のプログラムに入れている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材選びに注意している。また、調理器具などは毎日必ず次亜塩素酸で消毒するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭の玄関のようにしたいと考えている。片付き過ぎず、散らかり過ぎずという雰囲気を目指している。玄関には日中鍵をかけず、入りやすい雰囲気を作っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いことを利点にし、家庭的な雰囲気、生活感のある空間作りに取り組んでいる。		

## 風の里 グループホーム

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル、ソファなどいくつかの居場所を用意し、気のあった利用者同士やみんなで楽しく過ごせる場作りをしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家庭で使っておられたものや馴染みのものを持ってきていただき、住み慣れた居室作りに協力してもらっている。また、各室にミニキッチンをつけている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調整、換気を行い、においなどにも注意し、居心地よい環境作りを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにし、段差をなくしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お一人おひとりの状態を把握し、その方にあった声かけを行い、混乱や失敗をふせいでいる。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前やベランダに鉢植えをおき、利用者が水やりができるようにしている。		

風の里 グループホーム

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## 風の里 グループホーム

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「納得・共存・勇気」の理念のもと、介護する人・される人と立場をわけず、お互いに与え与えられる関係性をもっています。特別なことは何もありませんが、毎日の生活の一瞬一瞬が、暖かく、穏やかであることが一番だと思っています。